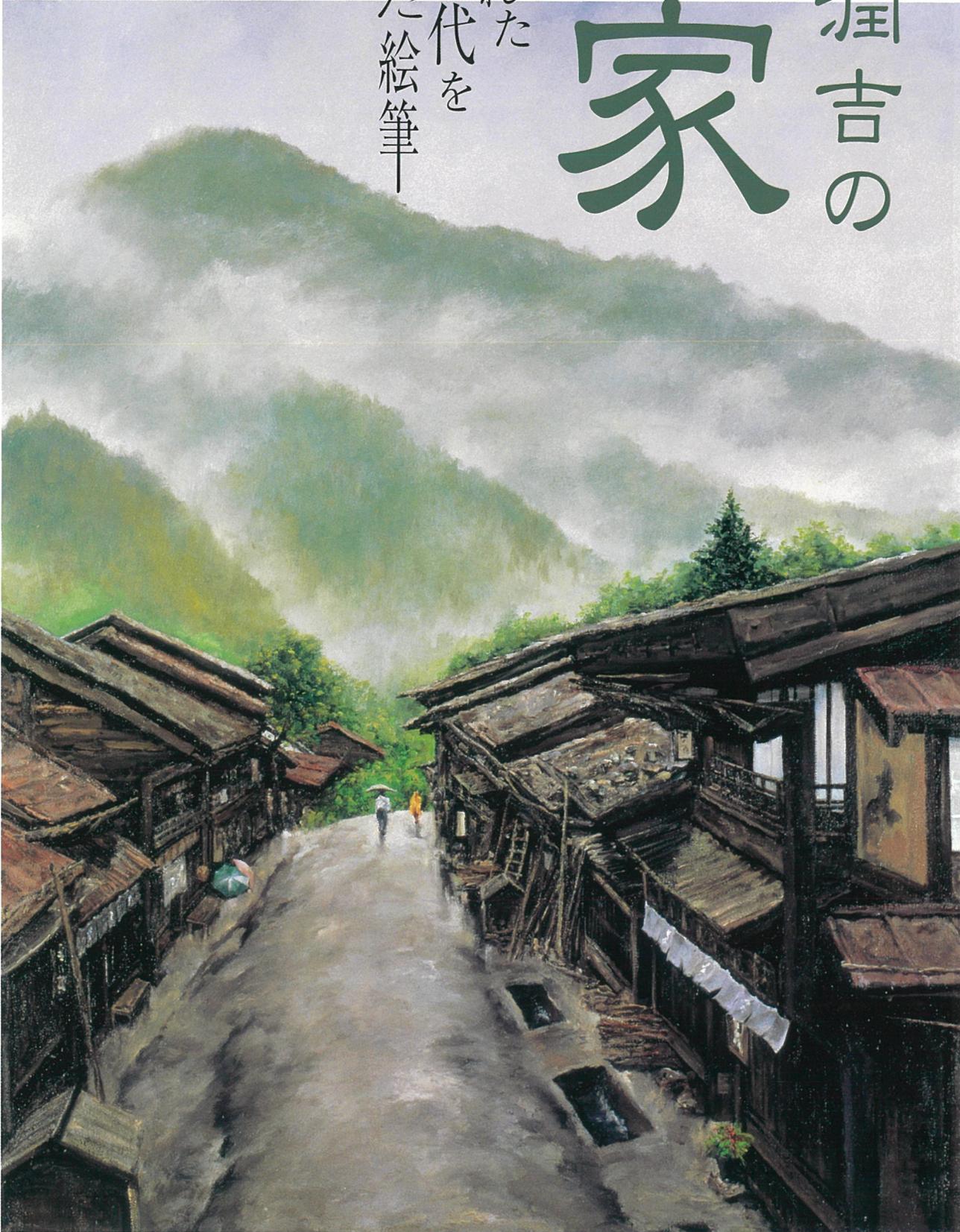


向井潤吉の

# 民家

失われた  
時代を  
写した絵筆



微雨【長野県木曾郡南木曾町妻籠】1974年

2004年 4月3日(土) — 7月25日(日)

■開館時間／午前10時～午後6時(入館は5時30分まで) ■休館日／毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)  
■観覧料／一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円) 65歳以上及び障害者の方100円(80円)  
( )内は20名以上の団体料金 土・日・休日は小・中学生は無料

世田谷美術館分館

## 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

# 向井潤吉の民家

失われた時代を  
写した絵筆

明治34年(1901)に京都に生まれた向井潤吉は、関西美術院で勉学を重ねたのち、昭和2年から5年にかけて渡欧し、ルーヴル美術館で21点にのぼる模写制作を行っています。そうした修行時代の向井は、模写を通じて西洋美術の本質に絵筆を介して対峙しようとしたようです。またこの期間、ドイツ、オランダ、ベルギーなどにも旅行し、各地の美術館を巡り歩いています。向井潤吉は模写を通じて、たんなる表現上の修練をかさねるにとどまらず、油彩画の材料研究も丹念に行っていました。

戦時中には陸軍報道班員として中国、フィリピン、ビルマなどにおもむき、旺盛な制作活動を展開しています。向井潤吉はそうしたなかで、戦禍にあえぐ人々の呻吟にふれ、また失われていく生活や文化への愛惜をいやおうなく感じていたであろうことは想像に難くありません。

向井潤吉が草屋根の民家に強い関心を寄せ始めたのは、終戦後間もなくのことでした。周知の通り、戦後の復興期から高度経済成長が進展するなかで、日本は経済大国として世界のなかで確固たる立場を築いてきました。しかしその反面、国内では深刻な公害問題や地方の過疎化など、社会的な課題が山積していきました。そうした時代の変遷のなかで、日本の風土もまたその様子を変え、草屋根の民家もその姿を激減させていきました。向井潤吉は、こうした日本が変貌していく裏面に置き忘れるように姿を消してゆく「民家」に関心を深め、それを絵筆で追うことで、同時代の対極にあるもう一つの日本の姿を描き遺したのだといえましょう。

本展では、当館の所蔵作品のなかから、向井潤吉の民家をモチーフとする作品を中心として、戦前、戦中の作品も併せてご覧いただきたいと思います。



春塘 [埼玉県川越市郊外] 1984年



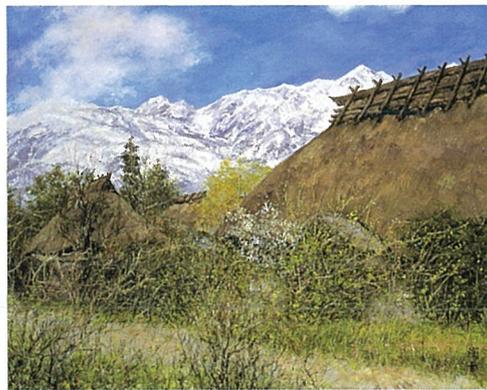
自画像 1919年



妙高高原 [新潟県中頸城郡妙高高原町] 1964年



春遠き町 1945～50年頃



岳麓好日 [長野県北信北安曇郡白馬村塩島] 1984年



叢林秋日 [埼玉県大里郡川本町] 1977年



春義 [埼玉県東松山市神戸] 1988年

## 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

### ●最寄り交通機関のご案内

- 東急田園都市線【駒沢大学】駅 西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車/徒歩17分
- 東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス(渋12) 渋谷～二子玉川 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

